

目次

こども福祉科 1年保育士・幼稚園教諭コース

A 厚生労働省指定科目 *印の科目は、豊岡短期大学通信教育部シラバス参照のこと

教養科目

* 憲法	町田 幸作	3
心理学	渡辺 舞	
* 情報リテラシーと処理技術	忽滑谷 夕鶴舞	
* 英語コミュニケーションⅠ	福田 桜子	
* 健康科学	安田 謙一	
* スポーツ（実技）	安田 謙一	

専門的科目

保育原理	藤田 留美	4
* 教育原理	明田川 知美	
こども家庭福祉	長谷 あゆみ	5
社会福祉論	池田 ひろみ	6
社会的養護Ⅰ	大場 信一	7
* 教職論	明田川 知美	
発達心理学	渡辺 舞	8
こどもの発達と家庭支援	渡辺 舞	9
* 教育課程論	高橋 裕	
* 保育内容総論	早坂 聡子	
* こどもの指導法「人間関係」	武田 克江	
* こどもの指導法「言葉」	久保田 知恵子	
* こどもの指導法「リズム表現Ⅰ」	村田 扶葉	
* こどもの指導法「造形表現」	矢元 政行	
* こどもの指導法「音楽表現Ⅰ」	折笠 美穂子	
	田中 智子	
	房田 里枝	
こどもと造形	矢元 政行	10
* 表現とこどもの運動	廣田 邦生	
乳幼児保育Ⅰ	谷内 智美	11
障害児保育Ⅰ	千葉 桂子	12
保育実習Ⅰ（施設）	藤田 留美	13
保育実習Ⅰ（保育所）	道上 里奈	14
保育実習指導Ⅰ・対策Ⅰ（施設）	藤田 留美	15
保育実習指導Ⅰ・対策Ⅰ（保育所）	道上 里奈	16
* 人間関係論	高橋 和也	
* 教育心理学	渡辺 舞	
* 造形表現論	矢元 政行	
こどもとリズム表現Ⅱ	房田 里枝	17
こども学概論	高橋 和也	18
	千葉 洸太	
* 教育方法論	有井 優太	
* 教育実習事前指導	井口 美和	

* 音楽表現論	田中 智子		
保育制作Ⅰ	谷内 智美	19
教育実習対策Ⅰ	井口 美和	20
こどもと音楽表現Ⅴ	折笠 美穂	21
	田中 智子		
	房田 里枝		
手話Ⅰ	札幌聴覚障害者協会	22

B 本校独自科目

応対論Ⅰ	坪崎 美佐緒	23
国語総合演習Ⅰ	浦田 日出雄	24
就職ガイダンスⅠ	長屋 敦志	25

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	講義
科目名	授業回数	授業時間
心理学	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
渡辺 舞		
科目のねらい		
心理学の基本的理論として、「心理学の領域と研究方法」「感覚・知覚」「学習・記憶・思考」の3つの領域について理解を深めていきます。		
到達目標		
1. 心理学の研究方法を学び、説明できるようになる。 2. 人のこころの基本的なしくみについて学び、説明できるようになる。		
受講の心構え		
プリントはノート代わりの書き込み式です。各自ファイル等を準備してください。 プリントは最終授業の時に提出してもらい、評価の対象とします。		
成績評価基準		
試験評価 80%・プリント提出 10%・授業への参加度 10%		
授業計画表		
1. オリエンテーション（授業のスケジュール・評価方法）／心理学とはなにか？ 2. 心理学の領域と研究方法／心理学を理解する 3. 感覚・知覚の心理学／見ること・聞くことのしくみを理解する 4. 学習・思考の心理学 1／動物実験から行動のしくみを理解する 5. 学習・思考の心理学 2／問題解決から思考のしくみを理解する 6. 記憶の心理学 1／記憶実験から記憶のしくみを理解する 7. 記憶の心理学 2／おぼえること・忘れることのしくみを理解する 8. 「心理学」のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
上長然・武田英樹『教育心理学』豊岡短期大学 その他、必要に応じて資料を配布する。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	講義
科目名	授業回数	授業時間
保育原理	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
藤田 留美	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針の内容を理解し、基本を踏まえた保育の展開や保育の質と専門性の向上について学ぶ。 ・ 保育の歴史的背景から、現状と課題を考察し、多様な保育ニーズについて理解を深める 		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の意義及び目的について理解する。 ・ 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 ・ 保育の思想と歴史の変遷について理解する。 ・ 保育の現状と課題について理解する 		
受講の心構え		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の基礎・基本となる授業です。主体的な学びになることを期待しています。 ・ プリントを配布します。ポケットファイル(40ポケット程度)又はフラットファイルを用意してください。 		
成績評価基準		
科目評価試験(80%)と授業への取り組み姿勢・提出物(20%)で総合的に評価する		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション／保育所保育に関する基本的事項 2. 保育の目標と方法①～生きる力と未来をつくり出す保育 3. 保育の目標と方法②～保育の環境 4. 保育の思想と歴史の変遷① 5. 保育の思想と歴史の変遷② 6. 子どもの発達～発達の特性 7. 保育所保育の特性～養護と教育 8. 幼児教育を行う施設としての考え 9. 保育の内容①～乳幼児の保育に関わるねらい及び内容 10. 保育の内容②～1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容 11. 保育の内容③～3歳以上児の保育に関するねらい及び内容 12. 保育の計画及び評価 13. 子どもの健康と安全 14. 保育者の専門性と倫理観 15. 授業のまとめ 		
使用テキスト・参考文献		
<p>「内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』フレーベル館」</p> <p>「『保育原理』豊岡短期大学」</p> <p>その他、毎時間プリントを配布します</p>		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	講義
科目名	授業回数	授業時間
こども家庭福祉	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
長谷 あゆみ		
科目のねらい		
現代社会における子どもの家庭福祉を学びます。 「社会で子どもを育てる」という観点に立ち、子どもの福祉の現状と課題・実際の援助のあり方を学び、その重要性を理解していきます。		
到達目標		
1, 権利を持つ「主体としての子ども」観の構築と子ども理解を深める 2, 子どもを取り巻くさまざまな課題と現状を学ぶ 3, 実際の援助・社会資源・法制度などを学び、専門性につなげる		
受講の心構え		
子どもの福祉を考える時に欠かせない大切な内容となっています。子ども理解とケア、実際の援助に活かせるように積極的に学ぶ姿勢を期待します。 必ず配布資料のファイリングをして下さい。		
成績評価基準		
レポート・筆記試験（60%） 授業での取り組み姿勢や態度（40%）		
授業計画表		
1, オリエンテーション／自己紹介／家庭福祉の意義 2, 子どもの人権と権利擁護／子ども観の歴史の変遷 3, 児童福祉六法 4, 子どもの福祉を図るための社会資源 ①児童相談所～ 5, 子どもの福祉を図るための社会資源 ②福祉施設～ 6, 子どもの福祉を図るための社会資源 ③児童養護施設 7, 家庭福祉の現状と課題／社会的養護下の子ども 8, 現代社会と子ども家庭福祉 9, 子どもを取り巻く困難とその影響ー子どもの虐待・DV・貧困 10, 前半のまとめ 11, 家庭養育と施設養育における保育士の役割 12, 要保護児童について／保育のソーシャルワーク機能 13, 社会的養護の現状・課題とこれからの展望 14, これからの子どもの福祉のあり方／セルフケア 15, まとめ		
使用テキスト・参考文献		
「豊岡短大 豊岡短期大学指定テキスト『こども家庭福祉』（豊岡短大）」 その他、随時授業時に資料を配布。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	講義
科目名	授業回数	授業時間
社会福祉論	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
池田 ひろみ		
科目のねらい		
日本の社会福祉について全体像を理解する。 社会福祉の理念を理解する。 自分たちの身近な問題・課題を福祉の視点で考える習慣を身につける。		
到達目標		
社会福祉の基本知識を習得し、自身の仕事や生活に役立てる。 他者（特に子どもとその家族）の状況について客観的に分析・把握する力を養う。 自分の意見・感想を的確に表現して他者に伝える力を身につける。		
受講の心構え		
配付資料はファイリングして全授業に持参すること。 自分の意見を他者に伝える努力を惜しまず、積極的に言葉で表現する習慣を身につけること。		
成績評価基準		
授業内の課題 30%、授業内の発言内容と態度 30%、筆記試験 40%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. 自己紹介とオリエンテーション 社会福祉の基本理念 自分にとっての福祉を考える2. 基本的人権の尊重と生存権の保障について3. 日本国憲法と社会福祉の法律・制度について その14. 日本国憲法と社会福祉の法律・制度について その25. 社会福祉の行政と実施機関について6. 子ども家庭福祉の考え方と子どもを取り巻く現状について7. 子どもの貧困問題とその解決の方策について8. ひとり親家庭の現状と子育て支援について9. 児童虐待の予防・早期発見と対応について10. 子どもの権利と権利擁護について11. 障害児・者福祉の現状と方策について12. 社会福祉の専門職の役割について13. 相談援助の技術について：傾聴の大切さ14. 相談援助の技術について：専門職としての対応15. まとめ 自分にとっての社会福祉を考える		
使用テキスト・参考文献		
『社会福祉論』豊岡短期大学 授業中に適宜新聞記事等の資料を配付します。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	講義
科目名	授業回数	授業時間
社会的養護 I	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
大場 信一		
科目のねらい		
望まれる保育者になるための必要な社会的養護の基礎知識、専門性、価値観を身につける		
到達目標		
社会的養護にかかわる歴史の変遷を踏まえ、現状と課題を理解する		
受講の心構え		
いま、子ども・家庭が直面している課題に関心をもつ		
成績評価基準		
中間ふりかえりテスト・期末テスト100% 出席状況は考慮		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1、 オリエンテーション2、 子ども・家庭を取り巻く状況3、 社会的養護、社会的養育とは4、 社会的養護の理念5、 社会的養護の歴史の変遷6、 子どもの人権7、 社会的養護の基本原則8、 社会的養護にかかわる法体系9、 社会的養護にかかわるシステムと制度10、 社会的養護にかかわる専門職と専門機関11、 家庭養護、家庭的養護と施設養護12、 社会的養護の対象13、 被措置児童等の虐待防止14、 社会的養護と地域15、 まとめ		
使用テキスト・参考文献		
豊岡短期大学指定テキスト		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	講義
科目名	授業回数	授業時間
発達心理学	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
渡辺 舞		
科目のねらい		
各発達段階での特徴的なところとからだの発達に注目していきます。 「新生児期・乳児期」「幼児期」「児童期」「青年期」の発達段階別に理解を深めていきます。		
到達目標		
1；生涯発達の観点から人のところとからだの発達を理解し、説明できるようになる。 2；乳児期と幼児期の特徴について重的に学び、保育現場で活用できるようになる。		
受講の心構え		
プリントはノート代わりの書き込み式です。各自ファイル等を準備してください。 プリントは最終授業の時に提出してもらい、評価の対象とします。		
成績評価基準		
試験評価 80%・プリント提出 10%・授業への参加度 10%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. オリエンテーション（授業のスケジュール・評価方法）／発達の考え方の基本2. 生涯発達心理学 1／受精から死までを「発達」と捉える考え方の理解3. 生涯発達心理学 2／生涯発達の考え方とライフステージの理解4. 新生児から乳児期の発達心理 1／赤ちゃんの見ている世界の理解5. 新生児から乳児期の発達心理 2／赤ちゃんの形態的・機能的発達6. 乳児期から幼児期の発達心理 1／ことばの発達7. 乳児期から幼児期の発達心理 2／愛着と自己意識の発達8. 乳児期から幼児期の発達心理 3／情緒と愛着の発達9. 乳児期から幼児期の発達心理 4／思考と遊びの発達10. 児童期の発達心理 1／家庭から学校への環境移行11. 児童期の発達心理 2／仲間関係の発達12. 青年期の発達心理 1／思春期の心理的特徴13. 青年期の発達心理 2／アイデンティティと青年の自立14. 青年期から成人期・老年期への移行／身体的・心理的变化の理解15. 発達心理学のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
上長然『発達心理学』豊岡短期大学 その他、必要に応じて資料を配布する。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	講義
科目名	授業回数	授業時間
こどもの発達と家庭支援	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
渡辺 舞		
科目のねらい		
「こどもの発達課題」「親子関係と家族関係の発達」「こどもの心の健康」「家庭支援の方法」の4つの領域について、こどもと家庭および子育て支援に関する内容を包括的に学んでいきます。		
到達目標		
1. こどもの発達について学び、保育現場で活用できるようになる。 2. 家庭支援の重要性を学び、保育現場で活用できるようになる。		
受講の心構え		
プリントはノート代わりの書き込み式です。各自ファイル等を準備してください。 プリントは最終授業の時に提出してもらい、評価の対象とします。		
成績評価基準		
試験評価 80%・プリント提出 10%・授業への参加度 10%豊岡短期大学『教育心理学』豊岡短期大学 その他、必要に応じて資料を配布する。		
授業計画表		
1. オリエンテーション（授業のスケジュール・評価方法）／生涯発達を理解する 2. 乳児期から幼児期の発達の特徴／基本的生活習慣の習得を理解する 3. 児童期の発達の特徴／こどもの人間関係を理解する 4. 青年期から成人期の発達の特徴／親としての発達を理解する 5. 成人期から老年期の発達の特徴／こどもの自立と人生の締めくくりを理解する 6. 家族と家庭の意義と役割／家族の範囲と家庭の役割を考える 7. 子育て家庭を取り巻く現状 1／社会状況と家庭の変化を理解する 8. 子育て家庭を取り巻く現状 2／社会状況の変化を踏まえて支援を考える 9. 特別な配慮を必要とする家庭の理解と支援 1／ひとり親家庭 10. 特別な配慮を必要とする家庭の理解と支援 2／児童虐待 11. 特別な配慮を必要とする家庭の理解と支援 3／DV 家庭への支援 12. こどもの個性の理解と支援 1／パーソナリティの捉え方と測定の基本を理解する 13. こどもの個性の理解と支援 2／発達の測定と支援を理解する 14. 保育カウンセリング／子育て相談場面でのコミュニケーションを理解する 15. 「こどもの発達と家庭支援」のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
室谷雅美『こどもの発達と家庭支援』豊岡短期大学 その他、必要に応じて資料を配布する。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもと造形	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
矢元 政行		
科目のねらい		
<p>・乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴を理解する。幼児造形の指導・援助者として造形の基本的な理論を理解するとともに、造形活動の展開と指導・援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術を習得する。えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域の表現方法についての知識や技術について体験的に学習する。</p>		
到達目標		
<p>・幼児造形教育の指導・援助者として必要となる造形の基礎的な知識及び技能について理解できる。 ・えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域の製作を通して、基礎的な表現技法について習得できる。 ・教材研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高めることができる。</p>		
受講の心構え		
<p>授業では道具等を忘れない、配布資料はファイリングしてください。演習は感想を提出してもらいます。授業では造形活動の楽しさを感じてください。</p>		
成績評価基準		
製作課題60%、プリント提出20% 出席点授業姿勢20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1 幼児造形教育の重要性と研究の視点について2 絵画技法及び描法について3 えがく領域における製作（各種表現技法を用いた製作）4 立体造形における技法と活用について5 つくる領域における製作（素材・廃材を活用した立体造形の製作）6 造形あそびにおける技法と活用について7 造形あそび（グループ）の領域における製作（素材・廃材を活用した造形あそび）8 まとめ		
使用テキスト・参考文献		
<p>豊岡短大『造形表現論』（配本テキスト） 『幼稚園教育要領解説』（最新版）（フレーベル館） 『保育所保育指針解説』（最新版）（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（最新版）（フレーベル館） 鶴留見裕子『おりがみよくばり百科』ひかりのくに」 その他、必要に応じて授業時に資料を配布</p>		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	講義
科目名	授業回数	授業時間
乳幼児保育 I	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい	子どもがこれから未来を生きていくうえで、保育士は人としての基礎作りとなる重要な時期に関わることとなります。「乳幼児」おもに3歳未満児の発育・発達の理解を深め、乳幼児保育における保育者の役割について理解を深めます。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・ 発達、発育を踏まえた保育の内容と運営体制について理解し計画を立てる。・ 沐浴人形を使用した実技を通し、実際のケアを身につける。・ 多様な保育現場における乳幼児保育の現状と課題を把握する。・ 乳幼児保育における職員間の連携、協同の意義を理解し自身の課題を明確にする。	
受講の心構え	2年次も引き続き学ぶ教科となります。配布プリントは2年間継続したファイリングを求めます。日々の関わりのお大切さを一緒に考えていきましょう。	
成績評価基準	授業への取り組み 20%、提出物 20%、筆記試験 60%	
授業計画表	<ol style="list-style-type: none">1 オリエンテーション・乳幼児保育の意義と役割2 乳児保育の歴史的変換3 乳幼児保育における養護と教育4 保育所における乳幼児保育①「0歳児クラスの保育と実際の関わり」5 保育所における乳幼児保育②「0歳児クラスの保育と実際の関わり」6 乳児ケアの実際①「抱っこ」「おんぶ」7 乳児ケアの実際②「排泄」8 保育所における乳幼児保育③「1歳以上3歳未満児クラスの保育と実際の関わり」9 3歳未満児の発達を踏まえた遊びと環境①10 3歳未満児の発達を踏まえた遊びと環境②11 3歳未満児の発達を踏まえた遊びと環境③12 家庭的保育・小規模保育における乳幼児保育の現状と課題13 乳幼児保育における保育者の業務と役割14 乳幼児保育における職員間の業務と役割15 授業のまとめ	
使用テキスト・参考文献	寺田清美 大方美香 塩谷香『乳児保育 I・II』中央法規 「乳幼児保育 I」(豊岡短期大学)	

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	演習
科目名	授業回数	授業時間
障がい児保育 1	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
千葉 桂子	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
障がいについて知る。障がい児を取り巻く現状を知る。障がい児保育における保育士の役割を理解する。		
到達目標		
障がいとは何かを知り、障がいを理解する。障がい児を取り巻く状況や環境について理解する、支援現場における保育士の役割について理解する。		
受講の心構え		
保育の現場に障がいのある子がいることが一般的です。現場での状況を伝え、実技も取り入れながら進めます。配布資料はファイルしてください。(A4) 毎回、ミニレポートを提出してもらいます。		
成績評価基準		
まとめのテスト 60%、小テストとミニレポート 20%、出席及び授業姿勢 20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. 障がいとは何か（オリエンテーション。障がいがあるとは？障がい観の変化）2. 障がいの捉え方（障がい児保育の歴史と現状）3. 障がいの特性と支援方法（視覚障がい、聴覚障がい）4. 障がいの特性と支援方法（言語障がい、肢体不自由）5. 障がいの特性と支援方法（知的障がい）6. 障がいの特性と支援方法（発達障がい）7. 障がいのある子どもの発達と環境8. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
使用テキスト『新基本保育シリーズ 17 障害児保育』中央法規 ・回ごとに資料配布 ・参考文献は、必要に応じて授業時に提示		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	実習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習Ⅰ（施設）	11日間	80時間以上
担当者氏名	担当者実務経験	
藤田 留美	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
職場体験を通じて施設職員としての仕事をする上で必要な知識を学び、求められる援助技術の内容を理解する。講義・演習で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関りを深め、利用者が求められている社会福祉の需要に関する理解力、判断力を養う。		
到達目標		
<ol style="list-style-type: none">1. 実習指導者の指導を受けながら業務の進め方や記録の方法について学び、実習期間中、施設等において、チームの一員として活動する能力を養う。2. 利用者を理解し、そのニーズを把握する能力を高める。3. 利用者や関係者への支援の実際を学び、技術を身につける。		
受講の心構え		
初めての施設実習ですが、職員や利用者・子ども達から多くの事を学べるように素直に謙虚な姿勢で積極的に取り組んでください。		
成績評価基準		
実習施設からの評価、実習日誌等の記録物、実習報告等を総合評価する		
授業計画表		
実習先 ①児童養護施設 ②障がい児入所施設 ③児童発達支援センター ④障がい者支援施設 実習期間 令和4年11月21日（月）～令和4年12月6日（火） ※期間内11日間80時間以上		
使用テキスト・参考文献		
特になし		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	実習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習Ⅰ（保育所）	11日	
担当者氏名	担当者実務経験	
道上 里奈	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1. 保育所の役割、機能等を実際の現場で体験を通して理解する。 2. 既習の教科全体の知識・技術等の課題を明確にする。 3. 次年度に向けての必要な知識・技術等の課題を明確にする。		
到達目標		
1. 実習園について理解する。 2. 保育所の一日の流れを保育に参加する中で理解する。 3. 保育士や子どもとの関わりを通して、乳幼児を理解する。 4. 生活や遊びの一部を担当し、保育技術を習得する。 5. 安全な環境を確保するにあたっての配慮について学ぶ。		
受講の心構え		
入学して初めての実習です。実際に子どもに触れ、現場を知ることができる機会を大切に、前向きに学んでください。		
成績評価基準		
実習評価、実習出席状況・提出物を総合的に評価する。		
授業計画表		
〔実習先〕 札幌市内及び札幌市内近郊保育所 〔実習期間〕 令和4年10月5日(月)～令和4年10月18日(火) 【期間内で11日間】		
使用テキスト・参考文献		
フレーベル館「保育所保育指針」「保育所保育指針解説」 実習の手引きは毎回持参すること。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習指導 I (施設) 保育実習対策 I (施設)	16回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
藤田 留美	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 体験実習の重要性を理解し、学校で学んだ知識技術を具体的に実践場面で生かすための態度や姿勢を理解し実習準備を行う。 2. 実習における実践学習をフィードバックし、その後の学習につなげるためのまとめを行う。 ※両教科併せて保育実習 I (福祉施設) の事前事後指導とする。 		
到達目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の目的を理解し、実習課題を明確にする。 2. 実習施設を理解する。 3. 実践現場における記録の書き方を理解する。 4. 実践現場における体験をまとめ、報告する。 		
受講の心構え		
何もわからないところからスタートします。積極的に授業に参加し障がい理解、施設理解について学び実習に向けての準備をする。実習後には、しっかりと振り返りを行い自分の課題を明確にする。		
成績評価基準		
課題の提出状況、報告内容等で総合的に評価する		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義・概要説明、施設種別説明 2. 資料配布、実習先希望調査 3. 実習施設の理解① 児童養護施設、障がい者支援施設 4. 実習施設の理解② 障がい児入所施設、児童発達支援センター 5. 実習施設希望理由書作成・提出 6. 実習目標作成① 7. 実習目標作成② 8. 実習目標作成③ 9. 実習事前訪問 10. 事前集中指導① 実習記録の書き方 11. 事前集中指導② 守秘義務・マナー指導 12. 事前集中指導③ 施設関係者講演・2年生との交流 13. 事後集中指導① 礼状指導、実習報告書作成 14. 事後集中指導② 実習報告会準備 15・16 事後集中指導③④ 実習報告会 		
使用テキスト・参考文献		
愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会『保育士をめざす人の福祉施設実習』 みらい 社会福祉法人大阪ボランティア協会編集『福祉小六法』中央法規 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター『保育学用語辞典』中央法規		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習指導 I (保育所) 保育実習対策 I (保育所)	16回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
道上 里奈	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1. 体験実習の重要性を理解し、学校で学んだ知識技術を具体的に実践場面で活かすための態度や姿勢を理解し、実習準備を行う。 2. 実習の振り返りを通して、今後の学習につなげ、自己課題を明確にする。 ※保育所指導 I (8時間)と保育実習対策 I (8時間)を併せて行うこととする。		
到達目標		
1. 実習の目的を理解し、実習課題を明確にする。 2. 保育所における計画や日誌の記述方法を身につける。 3. 実習生としての心構えを習得すると同時に、現場で求められるマナーや知識を得る。 4. 実習現場における体験をまとめ、報告する。		
受講の心構え		
現場で学ぶことのできる貴重な機会です。それに向けて基本的な知識を身につけていきます。課題も多くありますので、先の見通しを持ちながら積極的に参加しましょう。		
成績評価基準		
授業態度、課題への取り組み、提出状況、発表を総合的に評価します。		
授業計画表		
1, 実習の意義・目的・概要の説明／実習の手引きについて 2, 実習の手引きについて／保育所の役割・機能の理解 3, 夏休みの活動について／日誌の書き方(時系列) 4, 事前訪問について 5, 現職の方からの講話・交流 6, 実習園の理解 7, 事前訪問 8, 実習日誌について 9, 実習日誌の書き方① 10, 事前集中指導①実習日誌の書き方について② 11, 事前集中指導②チェックリスト 12, 事前集中指導③諸注意 13, 事後集中指導①報告会準備 14, 事後集中指導②報告会準備 15・16, 実習報告会①②		
使用テキスト・参考文献		
フレーベル館「保育所保育指針」「保育所保育指針解説」 実習の手引きは毎回持参すること。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもとリズム表現Ⅱ	8回	15回
担当者氏名	担当者実務経験	
房田 里枝	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1. 幼稚園、保育園における領域「表現」の内容を学び理解する。 2. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助の方法を学ぶ。 3. 表現する力を育てるための手段を身体表現、音楽表現の分野から学ぶ。		
到達目標		
1. こどもの活動は様々な領域での知識、技術に関連させる必要があることを理解し、そのうえで保育者として表現する力を育てる必要性を実践から学ぶ。 2. 音楽基礎知識を深め、保育者として資質を高める。		
受講の心構え		
1. 自発性を引き出し、またグループ内での協調性を大切にして幼稚園教諭、保育士を目指して学習している目的意識を持って授業に臨む 2. 幼稚園・保育園で行なわれている手遊びやリトミックを学び、手遊び製作ブックをつくる。		
成績評価基準		
個人評価、グループ発表の評価40% 製作提出物30% 学習意欲、積極性、出席率30%		
授業計画表		
1. オリエンテーション 幼稚園・保育園で行なわれている手遊びやリトミックを学ぶ 2. 楽器の紹介、ハンドベル演奏会のチーム決め 3. ハンドベル演奏練習 4. ハンドベル演奏・発表 5. 手遊びブックの案だし・製作 6. 手遊びブックの製作 7. 手遊びブックの仕上げ 8. 手遊びブックの完成と発表と評価		
使用テキスト・参考文献		
小林美実『こどものうた200』チャイルド本社 小林美実『続こどものうた200』チャイルド本社		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	演習
科目名	授業回数	授業時間
こども学概論	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
高橋 和也 千葉 洸太	幼稚園教諭として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい	こどもとは… どのような存在なのか、こどもを取り巻く環境と併せて考える。また、こどもの健やかな育ちを願い、こどもの発達を遊び・環境を通して理解する。その上で、発達にあった遊びや環境構成を実際に考え、実践することで、指導力を身に付ける。	
到達目標	現代的なこどもの問題を考え、どのような環境が必要であるかを考える。また、こどもの成長とあそびの関係性を考察し、遊びを通してこどもの発達を理解する。	
受講の心構え	運動のしやすい服装。講義と演習を通して実践力を身につける授業です。積極的に授業に参加して知識と技術を身につけましょう。グループでの活動も多いので、協力して行ってください。	
成績評価基準	提出物・授業態度・出席状況など総合的に評価する。	
授業計画表	<ol style="list-style-type: none">1. 「こども」とは… 子どもを取り巻く環境とこどもの権利2. 発達過程と遊びの関係～なぜ遊びは大切なのか～3. 発達特性からみた遊びの指導① 0・1・2歳児の遊びの指導4. 発達特性からみた遊びの指導② 3・4・5歳児の遊びの指導5. ねらいと内容 室内遊びと安全指導①6. ねらいと内容 室内遊びと安全指導②7. ねらいと内容 室内遊びと安全指導③8. ねらいと内容 戸外遊びと安全指導①9. ねらいと内容 戸外遊びと安全指導②10. 保育内容と指導案の考え①11. 保育内容と指導案の考え②12. ねらいと内容 日本の伝統的な行事と園行事13. 日本の伝承遊び①14. 日本の伝承遊び② ～伝承遊びからみる現代のこども観～15. 授業の振り返りとまとめ	
使用テキスト・参考文献	授業時にプリントを配布いたします。	

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育制作 I	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
子どもの豊かな育ちのために、教材の目的やねらいを理解することが必要である。作成するにあたって基本的な技術や知識を習得し、身に付けていく。完成品をどのように表現、応用、展開するかを子どもの姿を想像しながら繰り返し行う。		
到達目標		
・保育教材として使用される「エプロンシアター」「パネルシアター」「ペープサート」を作成する。 ・作成のための技術や演じるために必要な演技力、応用力、展開力を身に付ける。		
受講の心構え		
提出期限厳守でお願いします。作品を制作するにあたって準備は各自で行います。計画性を持ち、不足のないよう、事前に用意するようにしましょう。		
成績評価基準		
制作の計画性や取り組み、制作物の内容で総合的に評価する。		
授業計画表		
1 オリエンテーション・授業計画／パネルシアターについて・題材決め 2 フェルトネーム制作 3 自己紹介作成 4 ミニ指導案について 5 パネルシアター制作① 6 パネルシアター制作② 7 パネルシアター制作③ 8 エプロンシアター制作① 9 エプロンシアター制作② 10 エプロンシアター制作③ 11 エプロンシアター制作④ 12 エプロンシアター制作⑤ 13 指導案について 14 実践発表会① 15 実践発表会②		
使用テキスト・参考文献		
中谷真弓『エプロンシアター型紙集』乳幼児教育研究所		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士・幼稚園教諭コース	1年	演習
科目名	授業回数	授業時間
教育実習対策 I	8回	時間
担当者氏名	担当者実務経験	
井口 美和	幼稚園教諭として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1 教育実習の意義や流れを理解し、実習への意欲・期待を高める。 2 幼稚園教諭・保育教諭として必要な資質を高め、実習に向かう目標や課題を明確にする。		
到達目標		
1 幼稚園・認定こども園の機能や保育を理解し、幼児理解を深める。 2 指導計画立案や日誌作成を実践し、保育サイクルを理解する。 3 幼稚園見学・見学記録等を通して保育現場の理解を深める。		
受講の心構え		
幼児との生活を楽しみに、幼稚園について学び、実習に臨む意欲を高めましょう。たくさん悩み苦しんでください、その先には幼児の笑顔が待っています。		
成績評価基準		
受講態度 30% 保育実践参加態度 40% 提出物 30%		
授業計画表		
1 実習の意義・目的・概要 幼稚園・認定こども園の理解 1 (DVD視聴)		
2 幼稚園・認定こども園の理解 2 (幼稚園教育要領等について) 実習の概要		
3 幼児理解(DVD視聴) 幼稚園の保育とは(幼児理解・教育課程・指導案) ・手遊び等の実践		
4 幼稚園見学事前指導 (指導案・保育日誌)・手遊び等の実践		
5 幼稚園見学 (模擬保育又はDVD視聴)		
6 幼稚園見学 (保育振り返り・DVDカンファレンス)		
7 幼稚園見学 (保育振り返り・DVDカンファレンス・日誌記入)		
8 幼稚園見学の振り返り・まとめ		
使用テキスト・参考文献		
田治米富子 『幼稚園教育実習事前・事後指導』豊岡短期大学指定 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもと音楽表現Ⅴ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
折笠 美穂 田中 智子 房田 里枝		
科目のねらい		
保育の中には音楽を使った活動があります。歌うこと、器楽を演奏すること、ピアノの弾き歌いなどの技術が必要となります。ここではピアノの実技を中心に基本的な知識と技術を学びます。		
到達目標		
ピアノを弾くために必要な基本的な知識を学ぶ。楽譜が読めるようになること。あいさつの歌3曲（おはよう・おべんとう・おかえりのうた）の他こどものうたを歌詞を覚えてピアノ伴奏が弾けるようになること。		
受講の心構え		
ピアノ演奏、弾き歌いは技術です。毎日ピアノに向かって練習する習慣を身につけてください。爪が伸びていると危険なので短く切ってください。		
成績評価基準		
実技試験・授業態度（練習状況などを含めて総合評価） 実技試験80% 授業態度20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. ピアノ実技の習得と歌 あいさつのうた3曲を中心に2. ピアノ実技の習得と歌 あいさつのうた3曲を中心に必要な伴奏の演習3. ピアノ実技の習得と歌 あいさつのうた3曲を中心に必要な伴奏の演習4. ピアノ実技の習得と歌 あいさつのうた3曲とこどものうた（簡易伴奏も含めて）5. ピアノ実技の習得と歌 あいさつのうた3曲とこどものうた（簡易伴奏も含めて）6. ピアノ実技の習得と歌 グループでの表現活動7. 発表に向けてのピアノと歌を練習と確認 グループでの表現活動8. まとめ 授業で取り組んできた成果を発表する		
使用テキスト・参考文献		
「小林 美実『こどものうた200』チャイルド本社」 「小林 美実『続こどものうた200』チャイルド本社」 その他必要に応じて授業時に資料を配布。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1年	演習
科目名	授業回数	授業時間
手話 I	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
若浜 ひろ子		
科目のねらい		
聴覚障害者の言語である「手話」の基本を学びます。 外見では分かりにくい聴覚障害についての理解を深めながら、実際に聴覚障害者と接した時に適切な対応ができ、且つ積極的なコミュニケーションをとるための方法を学びます。		
到達目標		
1. 聴覚障害者への配慮と対応方法を学び、基本的な手話を習得・実践できる。 2. 聴覚障害者のコミュニケーション手段の1つである手話という言語を基礎から学び、初歩的な会話ができる。 3. 聴覚障害者の社会生活を理解できる。		
受講の心構え		
聴覚障害者が使う『手話』は目で見える言葉です。 手話を習得するために、講師の手話をよく見て表現しましょう。積極的に手話でコミュニケーションを取り、分からないことはすぐにたずねて理解を深めましょう。		
成績評価基準		
読み取り、レポート80% 授業姿勢20%を総合評価する		
授業計画表		
1. ガイダンス 聴覚障害者の基礎知識「聴覚障害者・コミュニケーションについて」 伝えあってみましょう「身振りで伝える」"		
2. 手話の基礎知識「手話について」 自己紹介をしましょう①「挨拶、自己紹介、家族」		
3. DVD鑑賞「聴覚障害者の生活を考える」 自己紹介をしましょう②「家族」		
4. 自己紹介をしましょう③「数字、趣味」		
5. 聴覚障害者の基礎知識II「聴覚障害者の生活について」 自己紹介をしましょう④「仕事」		
6. 時に関する手話 「会話してみましょう」		
7. 自己紹介のまとめ「会話表現」		
8. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
「さっぽろの手話」公益社団法人札幌聴覚障害者協会 参考資料 「わたしたちの手話学習辞典I」(一般財団法人全日本ろうあ連盟出版局)		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士・幼稚園教諭コース	1年	講義
科目名	授業回数	授業時間
応対論 I	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
坪崎 美佐緒		
科目のねらい	この科目では社会人としての信頼の土台であるマナーを身につける。 気持ちの良い挨拶、表情、身だしなみや敬語、電話応対を身につける。 実習に入った際にもマナーを身につけていることで信頼されられる存在となるため	
到達目標	「あいさつ」「身だしなみ」「敬語」といった、社会人として最低限必要なことを日々の学校生活の中で実践できるようになる	
受講の心構え	応対論は社会に出る前の練習の場」であるので授業で学んだことを実践し身につけましょう。 挨拶や敬語などマナーは他の教科、日常生活でも実施することで身につきます。 欠席した場合は、次の授業で支障のないように事前に準備すること。	
成績評価基準	筆記試験 30%・実技試験 30%・平常点(授業での取り組み 40%)の総合評価	
授業計画表	<ol style="list-style-type: none">1. 円滑な人間関係を築くためにマナーの必要性・挨拶・お辞儀・表情・態度・立ち居振る舞い、2. 正しい言葉遣い（尊敬語・謙譲語・丁寧語について、感じの良い表現）3. 電話応対4. 手紙のマナー5. 来客応対（案内手順と心得）6. 訪問のマナー（席次のマナー・アポイントの取り方）7. 食事のマナー8. まとめ	
使用テキスト・参考文献	『マナー&プロトコルの基礎知識』NPO 法人日本マナープロトコル協会 塩谷香『保育への心構えができる 保護者が安心できる 保育者のマナーと常識』少年写真新聞社	

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士・幼稚園教諭コース	1年	講義
科目名	授業回数	授業時間
国語総合演習 I	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
浦田 日出雄		
科目のねらい	自分が書く文字について振り返り、正確で読みやすい工夫をする。また、いろいろな様式の文章に触れ、目的に合った文章を理解したり、書いたりする。	
到達目標	字形を整え、丁寧に文字を書くことが出来る。語彙を増やし、使用することができる。いろいろな様式の文章を書くことができる。	
受講の心構え	伝えたいことを話したり、書いたり、相手の話を聞いたりしながら、豊かな表現を目指し取り組んでほしい。	
成績評価基準	まとめの試験 60% 小テスト 20% 授業姿勢 20%	
授業計画表	<ol style="list-style-type: none">1. ひらがな、カタカナ、よく使う字について練習する。愛読書について。2. 個人票の様式を知り、作成する。3. 封筒の宛名、差出人の住所、名前をバランス良く書く。礼状の書き方。4. 同音異義語などについて理解し、練習する。目的に合った文章を書く。5. 同訓異義語などについて理解し、練習する。目的に合った文章を書く。6. 慣用句、専門用語の正しい理解と使い方を知る。7. 四字熟語が読めて、意味を知る。ことわざについて知る。8. ことわざについて知る。まとめの試験をする。	
使用テキスト・参考文献	必要に応じてプリントを配付する。	

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科	1年	演習
科目名	授業回数	授業時間
就職ガイダンス I	2回	4時間
担当者氏名	担当者実務経験	
長屋 敦志		
科目のねらい		
卒業生の就職活動体験などの見聞を通じ、自身の進路選択の参考にする。 希望する進路を実現させるために、自分自身に不足しているものは何か知り、内定に向けた取り組みが実践できるようになる。		
到達目標		
1. 進路（希望施設・種別・地域など）について考える。 2. 卒業生の就職活動体験を参考に、就職に対する主体的意欲を持つ。 3. 希望進路実現に向けた、計画的な取り組み、具体的行動を考える。		
受講の心構え		
どこで働きたいかイメージすることで、いつ・どこで・何を取り組むのか明確にして、希望進路の実現を目指しましょう。		
成績評価基準		
受講をもって履修とする		
授業計画表		
1 オリエンテーション 進路希望調査と就職に関する疑問調査 2 就職座談会 ～ 卒業生の体験談をもとに自分の将来をイメージする		
使用テキスト・参考文献		
特になし		